

2022年10月25日

北海道住宅新聞

発行所：北海道住宅新聞社 〒060-0909 札幌市東区北9条東2丁目2-3 JPT 北9条ビル2階 TEL.011-299-4430 FAX.011-299-4448 発行人：白井 康永 発行日：毎月5・15・25日 購読料：3,300円/月（送料込）

断熱等級6・7で全館空調普及へ

オール電化で年間冷暖房費11万円

オンラインセミナー

10月3日、アキレス㈱、㈱システック環境研究所、北海道電力㈱、YKK AP㈱の4社が共催でオンラインセミナー「断熱等級6・7の創設で北海道の住宅はこう変わる！」を開催した。

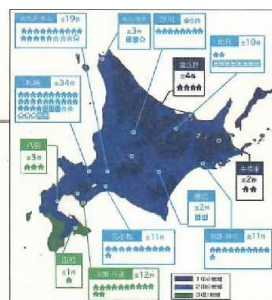
最初に道建設部住宅局の佐々木智和氏が「『ゼロカーボン北海道』の実現に向けた取り組み」と題して基調講演を行い、普及を加速させている北方型住宅の中で最も性能水準が高い「北方型住宅2020」をPRした。

続いて、アキレス断熱資材事業部の本田俊裕氏が「脱炭素で求められる断熱・気密性能」について講演。高断熱住宅の断熱仕様について、北方型住宅2020はキューワンボード外張り61mm、さらに等級6以上になると軸間へのグラスウール充填を併用、等級7はキューワンボード100mmの外張り付加でクリアする。この100mm付加断熱に適した新製品が、一発施

工できるキューワンボードMA。気密性能は、外で風が吹いても漏気量が少ないC値0.5 cm^3/m^2 以下を確保すべきだとした。

次に、YKK AP北海道商品開発室の倉島淳一室長が「等級6、7の開口部仕様について」と題して講演。今後は等級6が北海道の標準仕様になるとし、開口部仕様を計算した。断熱等級6は、トリプルガラス樹脂サッシのAPW430と充填断熱に λ 値0.020Wの付加断熱材66mm厚で U_A 値0.25Wとなり、クリアすることができる。

システック環境研究所の西郷昌高氏は、「断熱強化でパネルヒーターからヒートポンプ全館輻射空調へ」と題して講演。断熱等級6で暖房負荷が4kW以下になり、14畳用と謳われている冷暖房エアコン1台で全館空調できる。試算によると同社のコンフォート



コンフォート24の道内実績



キューワンボードMAの施工例

24は、札幌で等級6クリアなら延床面積43坪の住宅で冷暖房費は年間11万円。北見は等級7クリアで年間10万円以下。北海道の全館空調に必要な条件としては、断熱等級5以上で、C値0.5 cm^3/m^2 以下とした。

最後にほくでんサービス㈱営業推進部の鎌田茂氏が「脱炭素の北海道電力としての取り組み」を講演。北海道電力では、2050年までに発電部門からのCO₂排出ゼロを目指しており、これが実現すれば「使用される電力は全てゼロカーボン＝オール電化はゼロカーボン」になると話した。